

9 院内シミュレーションについて

9-1) 院内シミュレーションとは

実際に臓器移植を行うことを想定し、関係部署が実際の臓器移植と同じように役割を分担し、マニュアル、フローチャート等を用いて各部署の役割やタイムスケジュールの確認を机上で行います。

また、模擬患者や模擬の患者家族を設定し、より実際に近い実地訓練形式で行われる場合もあります。さらに外部評価者などを招き、問題点を改善することを目的とします。

9-2) 院内シミュレーションに技師が参加するメリットは

特殊環境下での高感度脳波記録がいかに困難な作業であるか理解を深めてもらうことで、脳波測定のための注意や環境整備等の協力が得られやすくなります。

法的脳死判定脳波記録に対する素朴な疑問や質問などがでた場合には丁寧に対応しておきましょう。きっと本番で役に立つこととなります。

9-3) 臨床検査技師の役割は

判定脳死判定の脳波記録を担当するだけでなく、その過程で必要になる血液ガス、エコー、血液検査、生化学検査などの検査についての確認を行います。また、実際に検査を担当しませんが、時には検査機器の準備を依頼される場合もありますので、機器のセットアップ手順など他の技師とともに理解を深めておくことも必要なことです。

さらに臓器移植のスケジュールはご家族の希望などを考慮し、ドナー、レシピエント双方の都合に合わせてネットワークコーディネータがスケジュール調整を行うため、脳波検査が夜間に行われる可能性もあり、その場合の当直体制や人員の確保などが行えるかどうかの確認を行います。

9-4) 命令系統はどう流れるか

法的脳死判定では医師、担当看護師、院内コーディネータ、ネットワークコーディネータが重要な役割を担います。その中でも院内コーディネータ、ネットワークコーディネータらがスケジュール管理の中心となります。また事務方がコーディネータのメッセンジャーとなり、スムーズな判定を陰で支えています。臨床検査技師は医師から脳波測定の依頼を受け、法的脳死判定開始時間は医師、院内コーディネータ、事務方のいずれから指示をうけることになるかの確認を行います。

また、提供施設の中には、臨床検査技師が院内コーディネータを担当しているケースも出てきています。法的脳死判定脳波記録だけでなく、全体像を把握した技師がいることはとても頼もしい状況ではないかと思えます。もし病院から院内コーディネータ担当の要請があれば、検査室にとっても自身にとってもチャンスと考えて積極的に挑戦していきましょう。